

## 高齢者の降圧目標 130mmHg 未満が推奨される

高齢の高血圧患者において、心臓血管イベントリスクを低減するための至適降圧目標については議論が続いている。本研究では、中国の 60~80 歳の高血圧患者 8,511 例を対象に多施設ランダム化比較試験を実施し、心臓血管リスクを低減するための至適降圧目標について検討した。

対象者を厳格降圧群（目標は収縮期血圧 110mmHg 以上 130mmHg 未満；4,243 例）と標準降圧群（同 130mmHg 以上 150mmHg 未満；4,268 例）の 2 群にランダムに割り付けた。追跡 1 年時点で、厳格降圧群の収縮期血圧の平均は 127.5mmHg、標準群の収縮期血圧の平均は 135.5mmHg であった。また、中央値 3.34 年の追跡時点での心臓血管イベントの発生は厳格降圧群で 3.5%、標準降圧群で 4.6%の被検者にみられた（ハザード比 0.74、 $P=0.007$ ）。心臓血管イベントの個別のハザード比は、脳卒中 0.67、急性冠症候群（急性心筋梗塞、不安定狭心症による入院）0.67、急性非代償性心不全 0.27、冠血行再建 0.69、心房細動 0.96、心臓血管病死 0.72 となった。安全性や腎臓の転帰については、両群間で有意な差はなかったが、低血圧のみが厳格降圧群で有意に高率にみられた。

したがって、高齢の高血圧患者においては、収縮期血圧 110mmHg 以上 130mmHg 未満を降圧目標とする厳格降圧目標のほうが、130mmHg 以上 150mmHg 未満を降圧目標とする標準降圧目標よりも心臓血管イベントリスクが低減することが示された。

出典：New England Journal of Medicine. 2021; 385: 1268-1279.